

事務事業名 放課後子ども教室開催事業

政策:05 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり

施策:04 学校家庭地域の連携

基本事業:04 地域教育力の向上

部名:教育部

課名:生涯学習課

計画年度	年度	～	年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市内の小学校、児童				安全・安心な子どもの活動拠点を学校に設け、地域の方々の協力を得て、様々な体験活動や交流活動などを実施しました。 設置小学校 2校（緑海小学校・日向小学校） 緑海小学校 開催日：毎月第2土曜日の午前中 内容：英語、将棋、学習、大正琴、料理、お花、書道、パソコン、お茶など 講師登録者数 38名 児童登録者数 150名 日向小学校 開催日：毎月第3木曜日の放課後 内容：英語、茶道、料理、パソコン、外昔遊び、手芸、工作、アロセキ - 講師登録者数 27名 児童登録者数 10名				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）				放課後等の子どもたちの安全で健やかな活動場所が確保される。				
4 活動指標・成果指標・事業費の推移								
区分	指標名称			単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	打合せを実施した小学校数			校	1	2	13	13
活動指標								
成果指標	放課後子ども教室を開催している小学校数			校	1	2	2	2
成果指標	放課後子ども教室に参加したのべ児童数			人	1,530	1,100	1,200	1,200
事業費				千円	1,025	828	1,625	
				うち一般財源	千円	609	677	1,131
5 目的妥当性								
○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い				放課後子ども教室開催事業は、国及び県の施策であり、補助金もあり妥当である。				
6 上位の基本事業への貢献度								
● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→） ○ 基礎的事務事業				放課後子ども教室は、地域ボランティアの方々と運営されており、地域と学校の連携という観点からも上位基本事業への貢献度は大きい。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討								
○ 対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる ● 対象や意図の見直しはできない ○ その他				対象は、小学校児童であり、対象や意図の見直しはできない。				
8 有効性（成果状況）								
○ あがっている ● どちらかといえばあがっている ○ あがっていない				地域に対する学校（児童）に対する支援意識向上が図られる。				
9 有効性（成果向上余地）								
○ 成果向上余地・大 ● 成果向上余地・中 ○ 成果向上余地・小・無し								
10 事業の再編成								
○ 類似の事業があり、再編成できる ● 類似の事業はあるが、再編成できない ○ 類似の事業はない				類似で、学童クラブ事業があるが、「放課後子どもプラン事業」では、事業の趣旨及び体系において差異があるため再編成はできない。ただし、事業実施にあたっては、学童クラブ事業を考慮する。				
11 効率性（コスト削減の方法）								
○ ある ● ない				地域ボランティアの方々が運営主体なので現行より削減方法はない。				